

## 巻頭言

# より信頼される阪神高速道路をめざして

常任参与

近藤 豊太郎

平成7年1月17日午前5時46分ごろ、淡路島北部を震源とするマグニチュード7.2の直下型地震が近畿地方を襲い、死者5,500名を越える被害を出すなど各地に大きな被害をもたらした。

この震災に伴い阪神高速道路も3号神戸線、5号湾岸線を中心に落橋を伴う損傷を受けた。

高速道路をはじめとする土木構造物は元来、地震などの自然災害に対して十分な耐力を持っていると自他共に認めていただけに、そのショックは計り知れなかった。これほど、土木技術者への警鐘となった出来事ははじめてのことである。

我々は、今後、損傷を受けた構造物の補修や補強工事を行うことになるが、その復旧には人々も注目しているところであり、また、今日ほど土木技術が世間に期待されている時期もないのではないだろうか。

早期に復旧を目指すのは当然であるが、近い将来に必ず訪れる高齢化社会の労働力不足にも対応できるように維持管理が極力不要で、周辺環境にも調和した21世紀にも十分通用する高速道路を建設しなければならない。

阪神大震災に対する代償は余りにも大きいですが、これを機会に、我々はより一層、土木技術の研鑽に励み、グレードの高い阪神高速道路を構築し、多様化した社会の要求に答えなければならないと思う。